

◆世界史◆ 科目別講評

(1) 出題方針

世界史の問題は[I] [II] [III]の三つの大問で構成され、配点はそれぞれ50点であり、全体で150点満点、試験時間は75分である。いずれの大問も、番号選択と記述式の二つの形式を混合して出題される。高校で学ぶべき知識を万遍なく学習したかどうかを重視しているため、出題範囲は高校世界史の教科書の記述内に留まり、それ以上の専門知識は求めている。その限りにおいて、先史時代から現代まで、欧米や中国のみならずどの地域についても、政治・経済・文化などあらゆる分野から出題される可能性がある。大問ごとに主たる地域・時代が設定されるが、個々の設問の出題範囲は必ずしもそれに限定されない。

大問によっては、ある地域の長期的展開や同時代の地域間関係を理解しているかどうかを問うこともある。例えば2月5日[I]では中国史、2月7日[I]ではイングランド史の展開を理解していることが求められる。2月8日[II]では、東南アジア史の展開のみならず、インドおよび中国との交流も理解している必要がある。地域間・国家間関係の理解は、2月6日[III]の大戦間期の国際情勢、2月9日[I]の古代朝鮮半島、同日[II]の近世大西洋世界については必須となる。また2月7日[II]および2月9日[III]では、近代の欧米各国にわたる動向を広く理解しておくことが求められる。2月8日[III]はアメリカ合衆国、2月10日[II]はロシア、2月7日[III]および2月10日[III]は中国を中心とするが、これらでも広く周辺の諸国・諸地域の動向とともに理解している必要がある。

(2) 解答状況および解説

試験日ごとの受験者／合格者の平均得点率は、2月5日は64.0／75.9%、2月6日は76.3／85.9%、2月7日は70.3／82.1%、2月8日は77.9／86.7%、2月9日は74.6／85.9%、2月10日は75.1／87.0%という結果だった。全体として正解率は高く、受験生の学習成果が表れているといえよう。

いずれの日程も、合格者の平均得点率は、受験者より約10%高くなった。以下、比較的大きな差が生じた設問を挙げる。まず歴史の流れ、因果関係の理解を問うものとして、2月10日[II]設問6は19世紀オスマン帝国の政治的イベント、同日[III]設問4(ウ)は1930年代の中国共産党の動きについて、三つのイベントの正しい年代順を選ぶ問題である。次に複数の地域にまたがる理解を問うものとして、外交・国際関係の分野では、例えば2月9日[III]設問5(イ)は19世紀末・20世紀初頭ドイツの対外膨張政策についての問題である。また広域的な動向に関連して、2月9日[III]設問4②は19世紀・20世紀前半のヨーロッパ各地の独立運動・国家統一運動、2月10日[III]設問4(ア)は1910年代の中国およびロシアにおける革命・皇帝退位後の動きについての問題である。その他、知識の正確さを問うものとして、例えば2月5日[II]設問9はフランス王ルイ9世についての問題だが、マムルーク朝スルタンやモンゴルに派遣された使節の名前を覚えていないと解けないので、難しかったようである。以上のように、正確な知識を組み合わせることで運用できるようになっておくことが求められる。

(3) 受験生へのメッセージ

何より重要なのは、高校世界史の教科書の内容を万遍なく学習しておくことである。具体的な人名・地名・用語の意味や意義を頭に入れ、その知識にもとづいて歴史的展開や地域間関係を理解したうえで、試験に臨んでほしい。

受験上の注意としては、以下の点が挙げられる。まずリード文・問いかけ文・選択肢を、落ち着いてよく読むこと。それによって正解を導く手がかりを見出せるだろう。逆に問いかけ文の指示を正確に読み取らなかったために、誤って解答しているケースがあった。また、解答欄が分からなくなる受験生が見られたが、設問ごとに記入すべき解答欄は指示されている。

次に、解答欄には丁寧に記入すること。数字・漢字・カタカナなど、正確さはむろんのこと、明確に書くことが求められる。とりわけ記述式問題に解答する際は、慎重さが必要である。漢字の間違ひは誤答となる。またカタカナで解答する場合、「ヴ」と「ブ」、「ティ」と「チ」を混同するなど、曖昧な覚え方をしているものも誤答となる。教科書でどのように表記されているか、よく注意して勉強されたい。ただし、もし正しく覚えていたとしても、例えば「シ／ツ／ミ」、「ア／マ」、

「ソ／ニ／メ／リ／ン」、「カ／ク／ワ」、「コ／ユ」、「テ／ラ」をしっかり書き分けていなければ、誤答と判断される可能性があるので、この点にも注意が必要である。

◆世界史◆ 出題の意図

102	出題の意図
[Ⅰ]	魏晋南北朝から清末までの中国史の展開についての理解を、南京・江南地域を中心に問う。
[Ⅱ]	中世後期ヨーロッパの政治・文化史に関する知識を、神聖ローマ帝国を中心に問う。
[Ⅲ]	近世・近代イギリスの国内政治・経済と対外進出および植民地に関する知識を問う。
103	出題の意図
[Ⅰ]	古代ギリシア・ヘレニズム・オリエント史に関する知識を、文化史を中心に問う。
[Ⅱ]	イスラーム史に関する知識を、シーア派・スンナ派の成り立ちを中心に問う。
[Ⅲ]	第一次・第二次世界大戦間期の国際情勢に関する知識を、ドイツの動きを中心に問う。
104	出題の意図
[Ⅰ]	中世・近世のイングランド(イギリス)史の展開についての理解を、歴代国王の事績を中心に問う。
[Ⅱ]	19世紀後半・20世紀初頭の欧米の政治・経済および帝国主義に関する知識を、フランスを中心に問う。
[Ⅲ]	中国現代史に関する知識を、周辺諸国や国際関係の動向とともに問う。
105	出題の意図
[Ⅰ]	中世西ヨーロッパ史に関する知識を、皇帝・国王と教会との関係を中心に問う。
[Ⅱ]	13世紀までの東南アジア史の展開についての理解を、インドおよび中国との交流とともに問う。
[Ⅲ]	19・20世紀アメリカ合衆国の政治・社会に関する知識を、アジア・アフリカ・ヨーロッパの動向とともに問う。
106	出題の意図
[Ⅰ]	古代の朝鮮半島を中心に、中国・東北アジア史に関する知識を問う。
[Ⅱ]	近世の大西洋方面に関する知識を、ヨーロッパ域内の動向とともに問う。
[Ⅲ]	ドイツを中心に、近代ヨーロッパ諸国の政治史に関する知識を問う。
107	出題の意図
[Ⅰ]	古代ローマからビザンツ時代にかけての政治・文化史に関する知識を問う。
[Ⅱ]	17-19世紀のロシアとヨーロッパ・アジア・アメリカとの政治・外交上の関わりに関する知識を問う。
[Ⅲ]	1910・20年代の中国の動向に関する知識を、ロシア(ソヴィエト連邦)やドイツとともに問う。